

「心に老いは無い」

○「地域には、自分の生涯学習啓発のため、体験講を意欲し始めたのは40代、価値観と異なる人が多く存在する。生涯学習を通じて、生涯学習ボランティア研究会の代表を務める。自身が生涯学習標を持った生活を送りたい」とで新しい発見がある。生ら務める。自身が生涯学習標を持った生活を送りたい」

と、高齢化社会に役立つことを学び地域に伝える「健康生きがいづくりアドバイザー」の資格を取得し、本格的に生涯学習の扉を叩いた。今では同会のほか、市民サークル「ウクレレZAMA」の代表も務める。

人物風土記

題字は
座間市長



●健康ウォーキング講座を開く「ZAMA生涯学習ボランティア研究会」の代表を務める

井上 精司さん

東原在住 76歳

○「ライフワークとも言えるのが登山。高校生で富士登山に挑戦してから、次第にその魅力の虜に。国内は北海道から屋久島、国外は欧州から北米まで山々を巡った。パートナーは妻あきさん。登山が嫌いだったという妻を「10年かけて引きこんだ」。これからは、未踏の南米やアフリカに視野を向けているそう。

○「登山にウクレレ、趣味に没頭できるのも「平和があつてこそ」。そう強く思うのは、苛烈な戦争体験があつたから。194語った。

○「希望ある限り若く、現在もその記憶は鮮明に刻まれている。だからこそ、今の平和に感謝し、その継統を望んで止まない。

○「希望ある限り若く、現在もその記憶は鮮明に刻まれている。だからこそ、今の平和に感謝し、その継統を望んで止まない。